

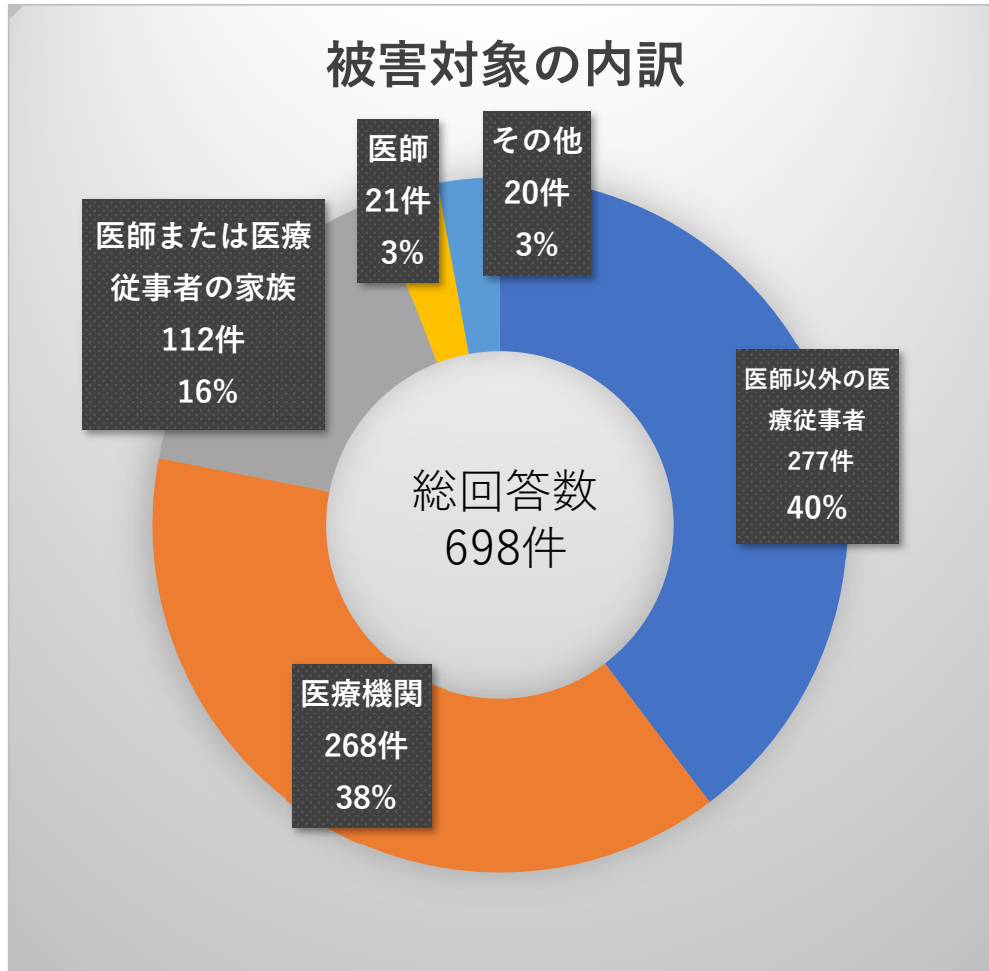
日本医師会
新型コロナウイルス感染症に関する
風評被害の緊急調査

定例記者会見
2021年2月3日
公益社団法人 日本医師会

日本医師会「新型コロナウイルス感染症に関する 風評被害の緊急調査」の概要

1. 調査の目的：令和2年度第2回都道府県医師会長会議（2020年11月17日開催）で新型コロナウイルス感染症に関する医療従事者等への風評被害について問題提起されたことを受けて、日本医師会として医療従事者等に対する風評被害の実態を把握し、その結果を基に、医療の最前線で奮闘している医療従事者の置かれている状況について、国民に理解を求める。
2. 調査の対象：都道府県医師会
3. 調査対象：2020年10月1日から12月25日までに各地域で起こった風評被害
4. 調査の内容：風評被害の対象者（医療機関、医師、医師以外の医療従事者、医師または医療従事者の家族、その他）、具体的事例、対応策
5. 調査方法：都道府県医師会のご協力のもと、各地域の被害状況について調査してもらい、その結果を、2021年1月15日を期限としてメールで回答してもらった。
6. 回答状況：47都道府県医師会全てより回答（総回答数698件）

被害対象の内訳



総回答数698件のうち「医師以外の医療従事者」に対する被害が277件と最も多かった。次に件数の多かった「医療機関」に対する被害は268件。また、「医師または医療従事者の家族」に対する被害は112件、「医師」に対する被害は21件、「その他」は20件に、それぞれなっていた。

被害の具体的な事例①（医師以外の医療従事者）

- 最も多かった「医師以外の医療従事者」に対する風評被害としては、主に看護師に対するものが多く、
- ・ 新型コロナを診ている医療機関か否かにかかわらず、医療機関に勤務しているというだけで、「近寄るな」「(集まりや習い事に)来ないで欲しい」「(美容院等の)予約を受けられない、しばらく利用を控えて欲しい」「一緒にエレベーターに乗るのが怖い」といった扱いや暴言を受けた。
 - ・ 保育園等に子どもの預かりを拒否され、新型コロナウイルス感染症の対応には当たっていないことを説明しても聞き入れられず、仕事を休むことを強いられた。
 - ・ 勤務先医療機関に初めて新型コロナウイルス感染症患者が入院した際、他の通院患者から「自分の家族がこちらで診療に通っているが、大丈夫なのか。何かあったら責任を取ってもらう」と言われた。
 - ・ 病院職員に陽性者が出たため、PCR検査を受け陰性だったが、自宅待機をしていたところ、近隣住民から電話が殺到、嫌がらせのようなものもあった。
 - ・ 買い物に行くと、知人である従業員から「何しに来たの？早く帰って」と言われた。
 - ・ 自分が病院勤務していることを知られているため、近隣住人の目が気になり、自宅に帰ることができない。
 - ・ 感染拡大地域から通勤していることで、同僚から避けられたり、車が県外ナンバーであることで肩身の狭い思いをすることがあった。

などが見られた。その中には、身内であるはずの家族や親戚から交流を避けられるといった事例も散見され、医療従事者が精神的にも大きなダメージを受けていることが心配される。

被害の具体的な事例②（医療機関）

次に多かった「医療機関」に対する風評被害としては、

- 新型コロナウイルス感染症に感染するが怖い等の理由で、定期通院患者が来院しなくなった
- 「診療・検査医療機関」であることが県ホームページに掲載されると、受診患者数が大きく減少した
- 近隣医療機関で新型コロナウイルス感染症患者が出たことを受けて、当院でも患者が出た、スタッフが感染している等、SNSに誤った情報を書き込まれた
- 病院敷地内にユニットハウスを建て、発熱外来として利用していると、近隣住民から「窓を開けるな」等、クレームがあった
- 医療機関に勤務していることを職員の家族等が心配し、職員の退職の原因となった
- 「お前らのせいで学校が再開できなくなった。どうしてくれるんだ」「新型コロナウイルス感染症拡大の責任をとれ」「職員を外出させるな」「職員の住んでいる場所を教えろ」等、恫喝めいた問い合わせがあった

などであったが、誤った情報により患者さんが減り、医療機関経営に影響が出たというものが多く見られた。

被害の具体的な事例③（医師または医療従事者の家族）

- 学校で子どもが「学校に来てもいいのか？お母さんは看護師だろ？」と言われるだけでなく、本人が新型コロナウイルスに感染しているかのような扱いを受けた
- 医療従事者の子どもというだけで、別室保育や、別室授業となる等の対応をされた他、登園や登校をしばらく控えるように要望されたりした
- 子どもの地域での活動（友達付き合い、習い事、クラブ活動等）が、直接的・間接的に拒否され、子どもが精神的に不安定となった
- 妻である看護師が、新型コロナウイルス感染症を診療している医療機関に勤務しているため、高齢の親のデイサービス利用が断られたり、取引先から「取引を止める」と言われたり、会社内で「お前の奥さんはコロナ感染症じゃないのか」「お前も感染してるんじゃないのか」と言われた

などの事例が見られ、家族にまでその被害が拡大していることが、本調査においても明らかとなった。

被害の具体的な事例④（医師）

- 本人は濃厚接触者ではなく、普段、新型コロナウイルス感染症患者の対応をしていないにもかかわらず、実施担当であった乳児健診について、親御さんからの心配の声を受けた自治体より、健診前の2週間は勤務しないように要望された
- 検死に赴いたにもかかわらず、当該関係者から、あたかも自分が新型コロナウイルス感染症に罹患しているかのような対応を受けた
- 防護服着用で診察等の対応をしていると、その格好を揶揄するような指摘をされた
- このような時だから、医師は遠出をするべきではないようなことを言われた
- 医師が近隣に引っ越してくると知った住人から、「窓も開けられなくなる」「引っ越しを延期してもらえないか」といったクレームが出た

など、新型コロナウイルス感染症に対する過剰な心配によると思われる事例が多く見られた。

風評被害への対応

風評被害への対応としては、

- ・不安で通院できないといった問い合わせがあった際は、保健所の指導の下、感染対策をしっかりと行っているので安心して通院して欲しいと説明した
- ・慢性疾患により定期的な通院が必要な患者には、個別に連絡し、病院内では感染対策を行っていること、定期的な受診が重要であることを説明した
- ・周辺住民を対象に新型コロナウイルス感染症についての勉強会を開催し、正しい情報が広まるよう努めた

など、その多くが丁寧に説明し、理解を求めているというものであった。

まとめ

- ・調査の対象期間は、2回目の緊急事態宣言が発令される前であったにもかかわらず、700件近い数の回答が寄せられ、全国規模で風評被害が発生していることが明らかとなった。その中には、風評被害というよりも、医療従事者に対する、いわれなき差別と言える事例が多く見られ、日本医師会としても、由々しき事態であると考えている。
- ・個々の医療機関においては、丁寧な説明を行うなどの対応をしているものの、限界もある。日本医師会としても、国民の皆さんに理解を求める動画を制作するなどの取り組みを続けていきたいと考えているが、国に対しても、何らかの早急な対応を求めたい。
- ・また、今回の風評被害の中には新型コロナウイルスのことを正しく理解していれば起きない事例も見られた。日本医師会としても、国民の皆さんが正しく恐れられるよう、情報提供に努めていくが、国やマスコミの皆さんもぜひ、正確な情報提供をお願いしたい。